

北海道大学

科学技術コミュニケーター養成ユニット
(CoSTEP)

受講生募集要項

2009年度 第1次募集

2009年2月

目次

1	募集要項	3
1.1	受講資格	3
1.2	履修コース	3
1.3	募集人員	4
1.4	開講期間	4
1.5	受講申込みの方法	4
1.6	受講生の選考方法	5
1.7	選考結果の発表	5
1.8	受講料	5
1.9	修得・修了の要件	6
1.10	e-learningでの受講について	6
1.11	問い合わせ先	6
2	履修科目の概要	7
2.1	本科	7
2.2	選科	8
2.3	開講式・ガイダンスと特別授業	9
2.4	その他	9
3	修得要件	10
4	受講申込み時に選択していただく科目	11
5	受講決定後に申し込んでいただく選択科目	13
6	授業のスケジュール	14

1 募集要項

1.1 受講資格

科学技術コミュニケーター養成ユニットの授業を受講できるのは、次の2つの要件を満たした方です。

- (1) 大学を卒業した方、またはそれと同等のリテラシーを有する方
- (2) 科学技術コミュニケーター養成ユニットで学んだことをもとに、将来にわたって継続的に科学技術コミュニケーション活動を行なっていこうという意欲に溢れる方*

1.2 履修コース

科学技術コミュニケーター養成ユニットには、「本科」と「選科」があり、いずれか一方を選択して履修します。†

本科 科学技術コミュニケーターとして、自らが中心となって様々な科学技術コミュニケーション活動を組織できる総合的な知識・スキルを習得します。講義、演習、実習を必修科目として受講します。

選科 科学技術コミュニケーターとしての基礎的な知識とスキルを習得します。講義、演習を必修科目として受講します。講義はe-learningでも受講可能で、下記の演習Aもしくは演習Bのみ通学して学びます。遠方の方など、頻繁に通学するのが難しい方でも、受講できます。

- 演習A（夏に2日間通学）では、ワークショップなど参加・体験型のイベントの企画運営、ファシリテーションなどに重点を置いて学習します。

- 演習B（前期または後期に7回通学）では、ライティングに重点を置いて学習します。

	本科	選科
講義		
本科演習		-
選科演習AまたはB	-	
実習		-
ライティング特別演習（1）		
ライティング特別演習（2）	-	
ジャーナリズム特別演習		
プレゼンテーション特別演習	-	

は必修、 は選択

*ここにいう「継続的な科学技術コミュニケーション活動」は、科学館など既存の組織・機関に關係しての科学技術コミュニケーション活動に限りません。ウェブページでの情報発信、地域の人々のサークルを通してのコミュニケーション活動など、様々なタイプの独創的な活動を含みます。

†2008年度以前に、科学技術コミュニケーター養成ユニットの本科を修了した方は、応募できません。2008年度以前に、科学技術コミュニケーター養成ユニットの選科を修了した方は、2009年度の本科に応募することができます。この場合、2009年度の講義の一部について、すでに修得済と認めることがあります。詳細については、開講後のガイダンスで説明します。

1.3 募集人員

本科：20～30名

選科：50～60名

1.4 開講期間

2009年5月9日(土)～2010年2月27日(土)

2009年5月9日(土)、10日(日)には、開講式・ガイダンス・特別授業があります。2010年2月27日(土)には、修了式があります。

1.5 受講申込みの方法

申込みの受付期間

受講生の募集を、下記のとおり第1次と第2次に分けて行ないます。

第1次募集：2009年4月1日(水)～4月20日(月)

第2次募集：2009年4月28日(火)～5月6日(水)

第2次募集は行なわないことがあります。第2次募集を行なうかどうかは、2009年4月28日(火)に、科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで発表します。

4月11日(土)13時より、科学技術コミュニケーター養成ユニットの受講生募集について説明会を開催します。会場やプログラムなどについては、3月下旬に科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトでご案内します。

提出書類

受講を希望する方は、次の書類を提出して、受講を申し込んで下さい。

- (1) 受講申込書(所定の様式)
- (2) 志望理由書(所定の様式)
- (3) 課題文(与えられた課題に応じて、任意のA4用紙1枚程度に)
- (4) 未使用の郵便ハガキ(おもてに申込者の住所・氏名・郵便番号を記入してください。申込み受付番号の連絡に使用します。)

* 本科を志望する方は、選科に併願できます。

* 上記書類が不備の場合は、申込みを受付できない場合があります。

提出先

受講申込みの書類は、下記の宛先まで、簡易書留で郵送する(受付期間内に必着するようお送り下さい)か、直接持参(月曜～金曜の午前9時～正午または午後2時～5時)して下さい。

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 事務室
(北海道大学 理学部本館 N221室)

1.6 受講生の選考方法

本科

本科は、書類選考と面接の2段階で選考します。

書類選考に合格した方については、面接を2009年4月25日(土)または4月26日(日)に行います。[‡]

選科

選科は、書類のみにより選考します。

書類選考について

書類選考は、受講申込書、志望理由書、課題文をもとに行います。

1.7 選考結果の発表

本科

書類選考の結果 2009年4月23日(木)

科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで、合格者の申込み受付番号を面接日時とともに発表します。

本科合格者 2009年4月28日(火)

科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで、合格者の申込み受付番号を発表します。

選科

選科合格者 2009年4月28日(火)

科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで、合格者の申込み受付番号を発表します。

1.8 受講料

受講料は無料です。

ただし、以下の教材費をいただきます。

本科：20,000円

[‡]応募書類に、面接に都合のよい日および時間帯を記入していただきます。この2日のいずれもご都合が悪い特別な事情があるときは、その旨ご記入下さい。対応可能な範囲内で事情を考慮することがあります。

選科：10,000円

(このほかに、一部の授業では、教科書もしくは参考書を購入していただくことがあります。また、実習時の交通費などについて実費を負担していただくことがあります。)

1.9 修得・修了の要件

各科目は、「3 修得要件」(10頁)に示された「修得の要件」を満たしたときに、修得したと認めます。各科目に関する評価は、「修得」もしくは「未修得」のいずれかとし、優良可や点数で評価することはしません。

必修科目をすべて修得した方には、科学技術コミュニケーター養成ユニットの「修了証」を授与します。

1.10 e-learningでの受講について

講義のe-learning配信

講義は e-learningでも受講できます。ただし e-learningでは、著作権等の関係で授業の一部が配信できない場合があります。授業終了後、受講生用のウェブページで視聴できるように配信します。約1ヶ月間、自由に視聴できます。

* 演習、実習は、e-learningで受講できません。

e-learningで受講するための環境

e-learningで受講するには以下の2つの環境を満たしている必要があります。

(1)パソコンにWindows版のIE(インターネット・エクスプローラー)がインストールされており、それでウェブページを閲覧することができる。

(2)インターネットで配信される、動画と音声を含むコンテンツを快適に見ることができる程度に、インターネット接続が高速である(ADSL接続や光ファイバー接続など)。

IEはWindows版に限ります(Mac版は不可)。なお、「e-learningで受講するための環境」が整っているかどうか、実際に確認していただくことができます。詳しくは、科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブページでお知らせいたします。

1.11 問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 事務室

(北海道大学理学部本館 N221室)

電話 011-706-3276

e-mail office@costep.hucc.hokudai.ac.jp

受講申込書は、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/>

2 履修科目の概要

本科と選科それぞれで履修する科目の概要は、以下の通りです。

2.1 本科

必修科目

科目	授業数	日時	備考
講義	27	水曜日 18:30-20:00	教室で受講。ただし、9コマまではe-learningで受講可
本科演習	17	土曜日 10:00-12:00	
メディア実習	21	土曜日 13:00-15:00	
カフェ実習	6	土曜日 15:30-17:00	

* 原則として、講義、演習、実習の授業がそれぞれ月に3回程度あります（詳しくは、「6. 授業のスケジュール」をご覧ください）

* 本科演習には、ライティング・スキル演習、プレゼンテーション・スキル演習、グラフィックデザイン演習、映像表現演習、情報デザイン演習が含まれます。

* メディア実習では、4つのコースから1つを選んで履修します。4つのコースの内容については、11頁の表をご覧ください

* 実習では、必要に応じ授業時間外に作業をする場合があります。

選択科目

科目	授業数	日時	備考
ライティング 特別演習(1)	5	6月～7月に5回ほど(予定) 火曜日18:30-20:00	定員20名(本科, 選科あわせて)
ジャーナリズム 特別演習	11	5月23日 2010年2月6日 土曜日16:00-17:30	定員20名(本科, 選科あわせて)

*これらの他に、昨年度の講義の中から今年度の講義を補完するような授業をe-learningで配信します。

2.2 選科

必修科目

科目	授業数	日時	備考
講義	27	水曜日 18:30-20:00	教室で、または e-learningで受講
演習A(イベント企画運営)	6	8月29日～30日または9月5日～6日の、いずれかの2日間に受講。2日間とも9:00-18:00(予定)	演習AまたはBを選択
演習B(サイエンス・ライティング)	7	金曜日 18:30-20:00	

* 原則として、講義は月に3回程度あります(詳しくは、「6. 授業のスケジュール」をご覧ください)。

* 演習Aでは、企画したイベント(ミニ・サイエンスカフェ)を札幌市中央区の紀伊國屋書店札幌本店前ロビーで上演する予定です。8月29日～30日または9月5日～6日の、どちらの2日間に受講するかは、受講が決まってから選択していただきます。

* 演習Bは、前期(5月～9月)と後期(10月～2月)にほぼ同じ内容で開講します。それらのどちらか一方を選択して履修します。どちらの時期に履修するかは、受講が決まってから選択していただきます。

選択科目

科目	授業数	日時	備考
ライティング 特別演習(1)	5	6月～7月に5回ほど(予定) 火曜日18:30-20:00	定員20名(本科, 選科あわせて)
ライティング 特別演習(2)		インターネットを利用して、 随時	定員15名ほど
ジャーナリズム 特別演習	11	5月23日 2010年2月6日 土曜日16:00-17:30	定員20名(本科, 選科あわせて)
プレゼンテーション 特別演習	3	7月25日(土) 10:00-12:00, 10月16日(金), 23日(金) 18:30-20:30	定員20名

*これらの他に、昨年度の講義の中から今年度の講義を補完するような授業をe-learningで配信します。

2.3 開講式・ガイダンスと特別授業

開講第1日、第2日は、以下のような内容で授業を行ないます。

5月9日(土) 13:00～18:00

開講式

特別講義：村上智彦氏（医療法人財団 夕張希望の杜 理事長）*

講義：はじめよう！ 科学技術コミュニケーション*

ガイダンス

ウェルカムパーティ

5月10日(日) 9:00～16:30

講義：実践入門*

オープニング・ワークショップ

*印のついたものは、本科・選科とも必修。e-learningで受講することもできます。

2.4 その他

予めカリキュラムに用意された内容以外に、教員の指導のもとで、受講生自ら科学技術コミュニケーションに関する企画を提案し、実施することができます（実現可能性などの審査があります）。たとえば、博物館の展示企画、児童向けワークショップ、出前授業、映像作品制作、広報誌制作、模擬コンセンサス会議などが考えられます。

3 修得要件

本科

科目		種別	修得要件	授業数
講義	講義	必修	すべての授業を受講（教室で受講。ただし9コマまではe-learningで受講可）年間9本程度のレポートを提出	27
実習	メディア実習	必修	4つのコースから1つ選ぶ 出席率70%以上	21
	カフェ実習	必修	出席率70%以上	6
演習	本科演習	必修	出席率70%以上 所定の課題を提出	17
	ライティング特別演習(1)	選択	出席率70%以上	5
	ジャーナリズム特別演習	選択	出席率70%以上	11

選科

科目		種別	修得要件	授業数
講義	講義	必修	すべての授業を受講（教室あるいはe-learning） 年間9本程度のレポートを提出	27
演習	演習A（イベント企画運営）	選択 必修	集中演習の2日間とも出席のこと	6
	演習B （サイエンス・ライティング）		出席率70%以上	7
	ライティング特別演習(1)	選択	出席率70%以上	5
	ライティング特別演習(2)	選択	本の紹介文を2編以上提出	
	ジャーナリズム特別演習	選択	出席率70%以上	11
	プレゼンテーション特別演習	選択	出席率70%以上	3

4 受講申込み時に選択していただく科目

本科：メディア実習のコース

4つのコースから1つを選択して履修します。

授業の目標 / 習得できるスキル	授業内容 / スケジュール
映像表現	
映像は、言語や写真とは異なる表現力を持っています。この表現力を実践的に習得することを目指します。映像制作をしてみたいが、どうやれば良いかわからない方にお勧めです。	各自でテーマを決め映像作品を制作します。ここでは、ビデオカメラやノンリニア編集機を使って実践的に映像表現技法を身につけることができます。短期間に撮影や編集技法を身につける夏期集中合宿があります。
ラジオ番組制作	
音声メディアを使って、科学技術を分かりやすく表現する力、人に効果的に伝える構成力といった、科学コミュニケーションスキルを身につけます。また科学技術と社会が接する領域において、メディアという道具で何ができるのか考えます。	大学内外の人や最先端の研究内容を取材し、ラジオやポッドキャストといった音声メディアのコンテンツに仕上げます。受講生自身がリポーターや司会、ディレクターなど多様な役割をこなし、制作のノウハウと、表現能力を身につけます。
グラフィックデザイン	
基本的な表現技法を学ぶことで、効果的なグラフィックスの制作に役立つスキルを身につけます。さらに、デザインのベースとなる“ アイディア ”を考える力を養います。	サイエンスコミュニケーションをテーマにしたイベントの広報や科学絵本の制作に取り組むことで、視覚表現のスキルを実践的に学びます。特に科学技術コミュニケーター養成ユニットが定期的開催しているサイエンス・カフェ札幌のポスター制作では、テーマ内容や企画の意図をくみ取りながら構想、制作、印刷、配布といった一連のプロセスを体験し、“ デザインとは何か ”を学びます。
広報メディア企画・制作	
広報とは、ある組織が持つ情報を一方的に発信するだけでなく、情報を持つ側とそれを必要としている側との双方向的な「関係」を望ましくデザインする営みです。この実習では、発信側の意向のみならず、情報の受け手（読者）が直面する課題や想いを的確に把握しながら、適切なメディアを組み合わせ、効果的な広報を行っていくために必要な、スキルやセンスを体験をもとに習得していきます。	北大広報誌『リテラポプリ』の特集記事を制作します。記事の企画から取材、執筆、撮影、誌面レイアウトの検討まで、広報メディアの制作に関わるプロセス全般を体験し、それらに必要なスキルを身につけていきます。また、誌面と連動しそれを補完するウェブコンテンツ（映像、ポッドキャスト）の制作も他の実習チームの協力を得ながら行うほか、誌面に登場した研究者と読者とが対話交流するイベントの企画も行う予定です。

選科：演習Aまたは演習B

2つの演習のうち、いずれかを選択して履修します。

授業の目標 / 習得できるスキル	授業内容 / スケジュール
演習A (イベント企画運営)	
サイエンスカフェや各種のワークショップなど、参加・体験型イベントの企画者・進行役に求められる「ファシリテーション」のスキルを、2日間かけて集中的に身につけることを目指します。異分野、異世代とのコラボレーション(協働)を通して、発想と実践のための素材を持ち寄り、互いの問題意識の違いや共通性を見い出しながら活動をデザインしていくことの醍醐味や可能性、課題を体得していきます。	演習1日目では、数人ずつのグループに分かれて、科学技術に関連したテーマや話題を持ち寄り、20分間程度のミニ・サイエンスイベントを企画・準備するためのグループワークを行います。その合間には、企画のノウハウやファシリテーションの技法について解説するミニレクチャーも行います。演習2日目は、午前イベントのリハーサルを行い、午後に学外の会場へ移動。科学技術コミュニケーター養成ユニット主催の「サイエンス・カフェ札幌」の一つとして、一般の参加者の前で実際に上演するところまでを行います。
演習B (サイエンス・ライティング)	
サイエンス・ライティングは、専門的な科学技術・知識を読者に伝えるだけでなく、社内文書、広報文、ウェブサイト/ブログ、メールなど、多様なコミュニケーションの場面に必要となる、基本的なスキルといえます。そこでこの演習では、文章によるコミュニケーションの楽しさと難しさを理解し、必要なスキルを身につけるために、マスメディアの現場で活動しているジャーナリストのノウハウをもとにした実践的な授業を展開していきます。書くことに苦手意識を持つ人も、楽しくなるような授業を目指します。	読み手と良好なコミュニケーションを築くことができる「伝わる文章」を書くためには、最低限何が必要なのか、ライティング技術の基本的な枠組みを理解する必要があります。そこで、ジャーナリストが取り組んでいる「書くプロセス」を構造化し、その構造化されたプロセスを段階的に体感できるワークショップ型の授業を行います。また、実際の取材/フィールドワークを通して、サイエンスライティングで求められる記事の企画から取材、執筆、外部メディアを通しての発信まで、一連の流れを体験します。

5 受講決定後に申し込んでいただく選択科目

必修科目のほかに、次の科目から選択して履修することができます。

授業の目標 / 習得できるスキル	授業内容 / スケジュール
ライティング特別演習(1) (本科および選科 対象)	
説明文、意見文の組み立ておよび作成を学びます。	本演習では、説明文と意見文を取り上げ、どのように文章を組み立てたらいいか、実践的に学びます。テキストとして樋口裕一著「ホンモノの文章力」(集英社新書)を読みます。また、文章をパソコンを使って書くとともに、原稿用紙に手書きすることも学びます。
ライティング特別演習(2) (選科のみ対象)	
<p>科学技術(科学技術と社会)を題材とする書籍の紹介文を書き、ウェブサイトで発信します(2~3本の紹介文を書き上げます)。それを通して、(1) たくさんの本の中から、魅力ある本を探し出すノウハウを身につける。(2) その魅力を、文章で効果的に伝える力を身につける。(3) 本の紹介文に限らず、わかりやすく説得力のある文章を書く力を習得する。</p> <p>対象者: ライティングのスキルアップをめざす人で、読書も好きな人。インターネットを使っての添削指導が中心となりますので、メールでの情報交換やウェブサイトの閲覧などが苦にならない人。</p>	<p>教室での授業は原則としてありません。インターネットを使っての添削指導です。一つの「紹介文」を書き上げるまでは、次のように進行します。(1) 自分で「お薦めの本」を探し出し、それを提案。(2) 「お薦めのポイント」を明らかにする。(3) 執筆に取りかかる。(4) 教員に「紹介文」を提出し、添削指導を受ける(その指導プロセスは、履修者全員に公開されます)。(5) 完成したら、ウェブサイトで公開(受講生の署名入りで)。</p>
ジャーナリズム特別演習(本科および選科 対象)	
<p>将来、科学技術ジャーナリズムの担い手となることをめざす受講生が、メディア各社の受験に必要な時事問題の基礎知識や作文力を習得することが目標です。</p>	<p>11回の演習形式で学びます。最初に自分のやりたい仕事、入りたい業界についてのディスカッション、その後は、月刊「新聞ダイジェスト」の精読および巻末問題のチェック、および入社試験にむけた作文の執筆・添削指導を繰り返して行なっていきます。</p>
プレゼンテーション特別演習(選科のみ対象)	
<p>学会発表やアウトリーチなど、様々な場面で活用できるプレゼンテーションの基礎的なスキルを獲得します。他人のプレゼンテーションに対する評価眼を養います。自分の伝えたいことをただ伝えるだけではなく、「伝える相手」に対する想像力を養います。</p>	<p>受講生一人ひとりが他の受講生の前で、各自設定したテーマについて短時間のプレゼンテーションを行い、互いに評価しあいます。特に、プレゼンテーションの内容ではなく方法について評価しあうことに重点を置きます。</p>

* 各授業には定員があります(詳しくは7-8頁をご覧ください)。

6 授業のスケジュール

授業のスケジュールについては、科学技術コミュニケーター養成ユニットの以下のウェブページから、「授業スケジュール」をご覧ください。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/news/detail.php?id=197>